

令和 7 年度上半期 スケジュール

企画展「めぐる 植物のかたち」

令和 7 年 7 月 22 日（火）～ 12 月 19 日（金）

開館時間：9:00 ～ 17:00（最終入館 16:30） 土曜日・日曜日・祝日は休館

風にそよぐ柔らかくしなやかな植物は、かつて暮らしの中で様々なかたちに転用され、産業の中で多用され、暮らしの中に根付いていました。すすき・稲・麦・麻。土地の資源を利用・循環させる生活文化について、その豊かな造形の魅力を鑑賞していただく企画展です。茅葺き屋根の葺き替えを中心にご紹介します。

北小木川の草刈

場所：北小木川 期日：令和 7 年 5 月 18 日（日）9:00 ～ 雨天の場合は翌週に延期

市天然記念物「北小木のホタル」の住みやすい環境作りのため、北小木川の草刈を実施します。

ボランティアにご協力いただける方を募集しています。詳細はホームページをご確認ください。

北小木のホタル生息数調査

場所：北小木川 期日：令和 7 年 6 月毎週月曜日・木曜日 20:00 ～ 雨天の場合は中止

ゲンジボタルの数を歩きながらカウントするボランティアにご協力いただける方を募集しています。

詳細はホームページをご確認ください。



写真（上下）永保寺五峰庵屋根葺き替えの様子

多治見市教育委員会 文化財保護センター 収蔵品データベース

🏠 施設トップ > 収蔵品一覧 > 資料情報

🔍 検索 🔍 絞り込み 🔄 リセット 📄 印刷

志野茶碗

資料番号 : 陶015

よみがな : しのかんわん

法量 : 器高8.5cm 口径13.0cm 高台径6.0cm

頁数 : 1

備考 : 筒形に焼き、胴部と口部に段差を付している。高台は低い、滑り出し、輪高台で、高台脇を削り取られている。内面胴部には三ツ目のヒン像がある。鉄線で側面には重なり、草文・樹（かき）などを施している。長石種を高台を削り取っている。一部分割取したところがある。（『研究紀要第4号』）

年代(和暦) : 桃山

年代(西暦) : 16～17世紀

Powered By: I.B. MUSEUM SWIS

収蔵品データベースをオープンしました！

多治見市教育委員会所蔵の収蔵品データベースをWebで公開しています。
公開する収蔵品は随時追加予定。ぜひチェックしてみてください！

<https://jmapps.ne.jp/citytajimi/index.html>

自然と人の文化

No.65 2025 年 3 月発行

編集・発行 多治見市文化財保護センター

発行部数：1,300 部（税込 60,632 円）

この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。

Instagram



X



ホームページ



アカウントは @tajimi_bunkazai

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033

E-mail hogo-cen@city.tajimi.lg.jp

開館時間：9:00 ～ 17:00（最終入館 16:30）

休館日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

入館料 無料

<https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

ACCESS

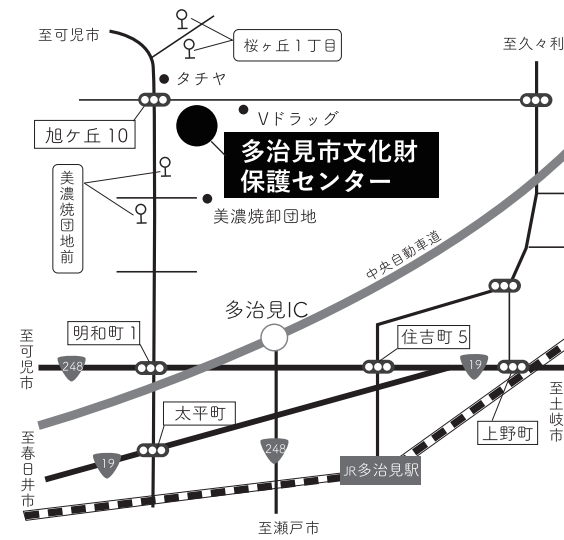
自動車

多治見 IC より車で約 10 分

電車・バス

JR 多治見駅北口より東鉄バス（名鉄緑台線・桜ヶ丘ハイツ線または緑ヶ丘線）に乗車

「桜ヶ丘 1 丁目」または「美濃焼団地前」下車・徒歩 5 分



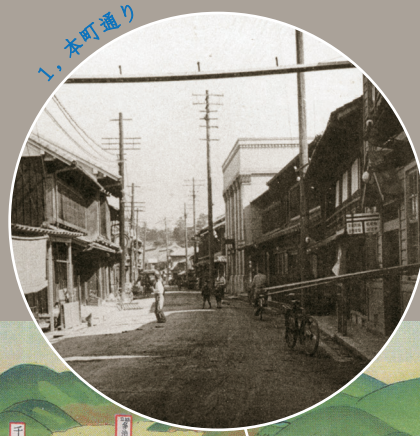
自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより No.65 2025.3

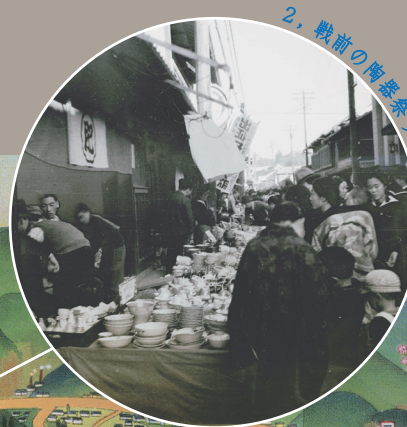
陶器商のまち

美濃焼の生産・流通が盛んになる江戸時代末期。仲買人とも呼ばれた陶器商が名古屋、江戸、大坂（大阪）をはじめ、全国に美濃焼を販売しました。特に現在の多治見市本町オリベストリート沿いには、明治時代になると 20 軒を超える陶器商が立ち並び、全国から買い付け業者が多治見を訪れるなど、街は大変賑わっていたといわれます。

1. 本町通り



2. 戦前の陶器売り



3. 荷馬車で運ばれる陶器



4. 多治見橋



5. 多治見駅

陶都多治見図絵 昭和 4 年（多治見市教育委員会所蔵）

大正時代～昭和初期にかけて活躍した鳥瞰図絵師・吉田初三郎が描いた「陶都多治見図絵」。当時の旅行ブームの中、全国の観光パンフレットを手がけた。架橋間もない昭和橋、記念橋、笠原鉄道なども描かれている。

- 1、3～5 多治見市図書館所蔵
- 2 個人蔵

多治見は陶器商のまち

明治時代初期、多治見市域で街並らしい地域は下街道沿いの池田町屋村くらいであったといわれています。池田町屋村では旅客相手の食べ物屋が一番多く、旅籠屋が数軒、それに近在の農家相手の雑貨屋などが並んでいました。

そのころの多治見村（土岐川以南の地域）では、下街道に沿う白土（現上町）、本町（現本町5丁目）と小路町に家が並び、窯（現窯町）と平野に窯屋が7～8軒ずつ散在していましたが明治時代中期頃までに人口が急増し、増加率は県下1位であったとされます。明治7年（1874）には郵便取扱所が設置され、同12年（1879）に第46国立銀行が創設されました。同14年（1881）に205軒であった多治見村の商業従事者は5年後には500軒を超え、急速に賑わっていったことがわかります。

この発展には幕末から明治時代的美濃焼の生産・販売が大きく関係しています。笠原・下石・駄知・妻木・土岐口・高山などの窯業地でも一挙に美濃焼生産が盛んとなり、当地域はその集散地として栄えていきました。同22年（1889）には東濃唯一の町制を敷き多治見町となり、さらに同33年（1900）に中央線多治見駅が開業すると、さらに発展を遂げていきました。

明治10年代になると陶業会社の創業が相次ぎ、多治見を中心に陶器商と呼ばれる商人が増えていきます。明治時代末には多治見に50軒の陶器商があり、その総出荷数は年間約35万俵、売上金は100万円を超えていました。このうち年間出荷数が1万俵を超える大店は山久、山新、満留寿、山カ、満留肥、山松など14軒あり、大阪や東京、名古屋に支店を置く店もありました。また、池田町屋村から移転した山竹日比野新七商店は、上海に支店を置き、いち早く海外販路の開拓に乗り出していました。

陶器商のまちをあるく



多治見市の土岐川以南の地域には、陶器商の建物や蔵が多く残り、明治時代の街並みの様子を今に伝えています。昔は通りごとに町名が付けられており、現在でも細い通りがあちこちにあります。また、馬車を繋いだ金具、戦争中の建物疎開の跡なども見ることができます。



企画展 陶器商の蔵

開催中です！

期間 令和7年1月27日（月）～6月20日（金）
開館時間：9:00～17:00（最終入館 16:30）
土・日・祝日は休館 特別開館日 6/1（日）



「清流の国ぎふ」文化祭 2024 が開催されました

第39回国文化祭・第24回全国障害者芸術・文化祭「清流の国ぎふ」文化祭2024が開催され、多治見市文化財保護センターでは令和6年10月16日から11月23日にかけて4つの事業を開催しました。

無形民俗文化財「小木棒の手」の特別披露と体験会、国重要無形文化財（人間国宝）・荒川豊蔵氏が開いた水月窯でおこなった窯焚き体験会、多治見市名勝「永保寺境内」に佇む五峰庵公開と茶会、そしてそれぞれの文化財について貴重な道具とともに紹介する企画展示をおこないました。

多治見市の大切な文化財について、たくさんの方々に知っていただく良い機会となりました。



「水月窯窯焚き体験」登窯での窯焚き体験



「小木棒の手ざんまい」

JR多治見駅北口の虎沢用水広場で演舞を披露していただきました



「永保寺五峰庵茶会」

合計112名の方にご参加いただきました

長福寺所蔵・大日如来坐像の修理が終了しました

令和6年4月から令和7年2月にかけて、青龍山長福寺（弁天町）が所蔵する大日如来坐像の修理を公益財団法人美術院国宝修理所（京都国立博物館内工房）でおこないました。

本駄においては、右肩を一旦取り外して接合面の調査を行い（写真①）、古い膠等を除去し、新たな竹製ダボを入れ膠で接合しました。また、刀痕と思われる右肩傷周囲の樹脂等による剥落止め（写真②）、亡失した垂飾金具の新補や劣化した銅線の取替えなどもおこないました。台座においては、緩みや割損のあった蓮弁の膠による接着や漆箔の浮き上がり箇所樹脂等による剥落止めなどをおこないました。

長期的な保護に繋がる修理をおこなうことができました。



【写真①】 右肩接合面の調査



【写真②】 右肩の剥落止め 修理前（左） 修理後（右）